

2. 第38回青少年のインターネット利用環境づくりフォーラム in 大阪

日時：令和4年12月10日（土曜日）13時から16時30分まで

会場：堺市立東文化会館 フラットホール

来場者数：68 名 オンライン視聴者数 183 名

主催：内閣府

共催：警察庁、総務省、法務省、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、

大阪府、大阪府教育委員会、大阪府警察本部、大阪の子どもを守るネット対策事業実行委員会

第38回

青少年のインターネット利用環境づくりフォーラム in 大阪

モバイル端末の普及により、青少年のインターネット利用環境が急激に変化していることから、国、地方公共団体、民間団体が連携して、全国3カ所で開催する。フォーラムでは、地域が自立した・持続的な青少年のインターネット利用環境づくりに関する取組を実施できるようにするための連携体制構築について考えていきます。

日時 令和4(2022年) **12月10日(土)** 【参加費無料】
13:00～16:30 (予定) 新型コロナウイルス感染症の状況によっては、ライブ配信のみの開催になる場合があります。

会場 **堺市立東文化会館 ギャラリー**
 大阪府堺市東区北野田1084-136



●フォーラムの模様は、ライブ配信いたします。
 詳細はこちらのホームページをご覧ください。
https://www5.dco.go.jp/youth/kankyo/internet_usage04/index.html



内閣府
 青少年政策推進部
 〒100-8901 東京都千代田区千代田1-1-1

主権 内閣府

所轄 警察庁、総務省、法務省、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、大阪府、大阪府教育委員会、大阪府建設委員会、大阪の子どもを育てるネット対策事業実行委員会(予定)(厚木)

協力 一般社団法人JNETネットコンテンツ審査機構、一般社団法人日本ネットイノベーションセンター(認定非営利法人)、子どもたちのインターネット利用について考える研究会、一般社団法人コンテンツエデュケーションセンター(認定NPO法人)、一般社団法人ファミリーネット協会、一般社団法人全国児童福祉施設互証協議会、一般社団法人児童医療関係者協会(予定)(※未定)



会場近辺地図

〒590-0811 大阪府堺市東区北野田1084-136

■アクセス
 JR東海道線堺駅より徒歩約10分(徒歩10分)

内閣府

プログラム	
12:30~13:00	受付 開始
13:00~13:10	開会 挨拶
13:10~13:25	府内情勢の 説明
13:25~14:10	基調講演
14:10~14:20	休憩
14:20~16:30	討 議
16:30	閉 会

プロフィール	
 竹内 和雄 兵庫県立大学 環境人間学部 准教授 (教職担当)	公立中学校で20年間、生徒指導主事等を担当（途中、小学校兼務）。豊屋川市教育委員会指導主事を経て2012年より現職（兵庫県立大学准教授）。生徒指導を専門とし、いじめ、不登校、ネット問題、生徒会活動等を研究している。文部科学省「学校における携帯電話の取扱い等に関する有識者会議」座長。内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」委員。ユニセフスマホサミット運営。ウィーン大学客員研究員。

令和4年12月10日（土曜日）に堺市立東文化会館フラットホールにて、第38回青少年のインターネット利用環境づくりフォーラム in 大阪を開催しました。大阪府域にある6つの学校が集まり、ワークショップでの成果発表やインターネット利用環境づくりに対する提言、自校の取組みの発表を行いました。中でも、企業・保護者・教員の代表としてFacebook Japan 株式会社 小俣栄一郎氏、大阪市 PTA 協議会 谷村利貴氏、関西学院千里国際中等部・高等部 米田謙三氏と参加生徒たちとの討議では、親には直接言えないスマホに関する本音や、学校の先生に手伝ってほしいことなどの意見も飛び出し、大変有意義なものとなりました。

特に、閉会の際に感想を述べる場面では「最初は（インターネットの利用に関して）親が子に思う気持ちなんてわからない、と思っていたけど、PTAの方や来場の方の意見を聞いて気持ちが変わった。」と発表する生徒もあり、インターネット利用環境について、他者との対話を通して自身の考えを深めていく様子がうかがえました。

<開会挨拶の様子>



内閣府 政策統括官（政策調整担当）付
青少年環境整備担当参事官 鈴木 達也



大阪府 福祉部子ども家庭局子ども青少年課
課長 佐田 剛清

<府内情勢の説明>

大阪府警察本部生活安全部少年課 千葉洋二氏が、大阪府域における「インターネットに起因する犯罪被害の状況及びその対策」について講演を行いました。

（千葉氏より）

特に、児童ポルノ・児童買春・大麻の売買などの犯罪が、SNS を通じて始まることが多い。近年ではオンラインゲームを窓口として男子が被害に遭うことも増えている。女性だけではなく全ての児童・生徒が気を付けなければならない。

大阪府警察としてサイバーパトロールを強化しており、注意喚起文や警告文を該当ツイート等には掲載している。また、インターネット上で被害に遭う危険性の高い内容を発見した際は、被害防止のため接触を試みるなど保護活動を行っている。

パパ活について、補導された生徒から聞き取りをしたところ、多くの被害者は「安全に、楽をして稼げると聞いた。」「友達に勧められた。」「みんな成功している。」というまた聞き情報を信用していることが分かった。パパ活などの成功例はよくアップされるが、失敗例はなかなか表に出てこない。うその情報に惑わされないためにも、また聞きや噂は信用しないこと。一番信頼できるのは、顔をみて喋れる近くにいる相手が本当の友人。

とのお言葉をいただきました。



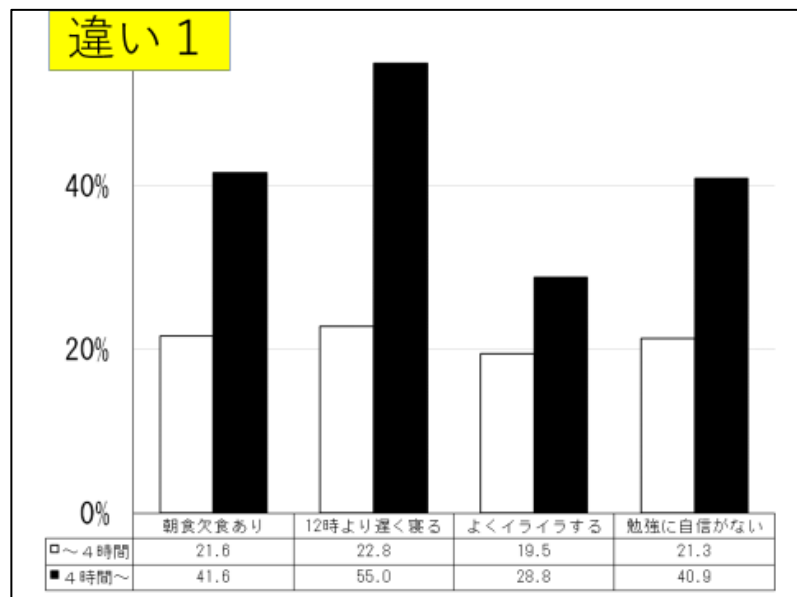
「インターネットに起因する犯罪被害の状況及びその対策」
大阪府警察本部生活安全部少年課 少年補導官 千葉 洋二氏

各種相談窓口
青少年クリニック 06-6773-4970 平日 9 時～17 時 45 分（土日祝日・年末年始は休み） （青少年の非行の原因究明等に関する相談）
グリーンライン（少年相談） 06-6944-7867 平日 9 時～17 時 45 分（土日祝日・年末年始は休み） （少年からの相談や家族、地域住民等からの少年非行等に関する相談）

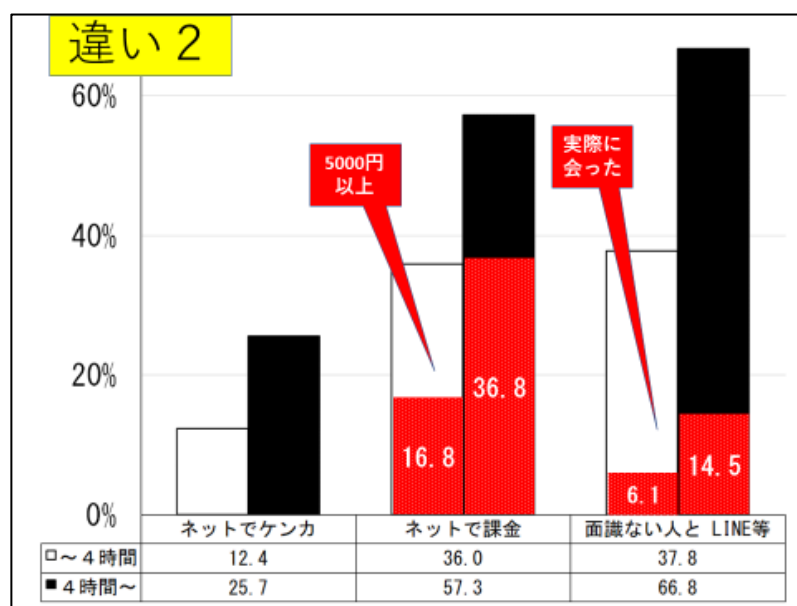
<基調講演>

兵庫県立大学環境人間学部准教授（教職担当） 竹内和雄氏より、スマホ時代の子どもたちのために～大阪府の実態調査（OSAKA スマホアンケート 2022 から）～と題した講演をしていただきました。

まず、大阪府域の小学1年生から高校3年生までの3万959人が協力した OSAKA スマホアンケートによると、インターネットを利用する子どもたちが低年齢化していること、スマホを利用する年齢が年々早くなっていることや、テレビを使ってネット利用していることが報告されました。



次に、ネットを1日のうち4時間以上利用する児童・生徒に共通する4つの特徴（①朝食欠食 ②深夜0時より遅く寝る ③よくいらいらする ④勉強に自信がない）があると竹内氏から発表されると、講演を聞いている生徒たちが、大きくうなづく姿が多くみられました。この4つの特徴に対して、ある生徒から「スマホによる悪循環だと思う。スマホを使ってゲームやSNSを遅くまでしているため、寝るのが遅くなり、朝起きられず、学校に間に合うように朝ご飯を抜く。そのために、学校にいる間はいらいらして勉強に集中できなくなるのではないか。」という意見がありました。



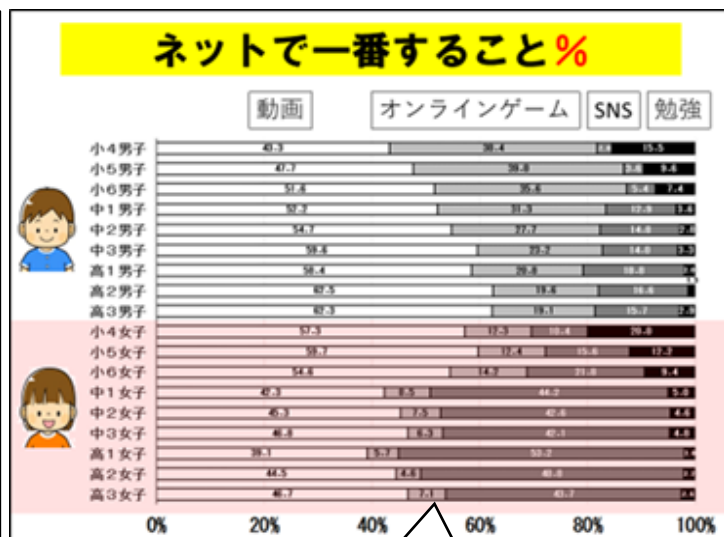
さらに、ネットを4時間以上利用する児童・生徒にはネット上でケンカや課金、面識がない人とのつながりがあるなど、トラブルの種になりそうな出来事を経験していることがわかりました。特に4時間以上ネットを使う人は、使わない人に比べて2倍以上の人がLINE等でつながった人に「実際に会う」ことを経験していることがわかりました。

警察本部の方が注意喚起をしていた「児童ポルノ・児童買春・大麻の売買などの犯罪が、SNSを通じて始まることが多い」ということから、ネットの長時間利用と犯罪被害に遭う可能性が無関係ではないことを示しています。

(竹内氏より) ネットの依存傾向がある生徒数は年々増えており、特に中学生の増加が顕著である。子どもたちの頑張りだけではなく、家族や先生方を含めた大人の頑張りも大切。双方が話し合い、理解し合うことで、あらたなネット利用環境が作れるようになると思う。
とのお言葉をいただきました。



・最近ではテレビのリモコンにYouTube ボタンがある。
・女子がスマホを持ち始める年齢が男子よりも早い、やはりインスタなどのSNSの利用が多くなるからだと思う。



・男子と女子はオンラインゲームとSNS利用の割合が異なるものの、他者と交流するツールとしてネットを利用していることは変わらない。

< 討議 >

テーマ：大人と子どもで考える「大阪府のネット利用の今後」

参加者： コーディネーター 竹内 和雄氏

パネリスト

小俣 栄一郎氏 (Facebook Japan 株式会社)

谷村 利貴氏 (大阪市 PTA 協議会)

米田 謙三氏 (関西学院千里国際中等部・高等部)

青少年・保護者合同ワークショップ参加校の生徒 6校 22名



子どもと保護者、インターネット関連企業、教員代表で討議を行い、お互いのインターネットに対する認識や、大人への本音・子どもへの本音を伝え合いました。

見守る姿勢と大人のネット知識の向上

参加生徒より、大人のネットに対する制限が強いことを不満に思う声や、親とのかかわり方についての意見がありました。

- ・スマホや SNS の使い方での失敗することもあるかもしれないが、まずは練習が必要。なんでも「ダメ」と言うのではなく、まずは見守ってほしい。
- ・課金について。課金はオンラインゲームだけではなく、漫画を買ったり、コンビニの支払に使ったりもする。課金＝遊びすぎ、ととらえないでほしい。大人の買い物と同じ。課金することで、キャッシュレスの知識も増えるのでは。
- ・学校のネット制限が厳しく、調べ学習でも止まってしまうことが多い。タブレットの使い方のルールを守ることに重点を置いて、制限はもう少し緩くしてほしい。
- ・計画やルールを作ってネットを使っているけど、失敗したりいらいらしたりすることがあるかもしれないから、まずは相談できる大人がほしい。大人にもネットのことを知っていてほしい。

ルール作りについて

参加生徒、保護者代表、インターネット関連企業及び教員代表で、実際に即したルール作りを行うための意見が交わされました。フィルタリングを採用する、しないの二極論ではなく、どのようにルールの中身を作り上げるかに注目する必要があることがわかりました。

- ・フィルタリングが一概に悪いわけではないが、その制限のラインを誰が決めているのかわからない。学校で使う端末に自分たち（生徒たち）の意見が反映されていない。（参加校 生徒）
- ・「臭いものには蓋をする」というようなやり方ではなく、生徒たちをもっと信頼する方向にルールづくり変わってきた。（Facebook Japan（株） 小俣氏）
- ・安心して失敗できる環境を整えてほしい。失敗したら大事になるのはわかっているから、まずは学校の中で小さな失敗ができるようになればいいのではと思う。（参加校 生徒）
- ・生徒側もフィルタリングについての学習が必要と思った。フィルタリングにはステップがある。それをうまく活用していこうと思ってほしい。（関西学院千里国際中等部・高等部 米田氏）
- ・やはり子ども達を信頼していかないといけないのだと身に染みてわかった。ネットリテラシーを身に付けようとする皆さん（生徒）の様子を見て、「ネット、がんばれよ」と思った。親もネットを理解し、正しく使えるようにする必要があると思った。（大阪市 PTA 協議会 谷村氏）

討議後の感想発表では、大人と本音で意見を交わすという機会が貴重で子ども側も、大人の気持ちを知ることができてよかった、との声がありました。白熱した討議に観客の方も大きくうなずいたり、手をあげたりして会場が一体となることができました。

代表校の取組紹介

○大阪市立董中学校

SNS講座

外部の先生に、
SNSアプリの安全
な使い方について
詳しく教えてもら
いました。



ポスターの作成
学校内に、スマ
ホの正しい使い
方に関するポス
ターを掲示して
います。



スマホの使い方、ルール
生徒会新聞でス
マホを賢く使う
方法を発信して
います。



アンケートの実施
生徒にスマホに
関するアンケー
トを実施して、
その問題点を見
つけ、対策を考
え、改善します。



<提案ルール>

1. 時間について－勉強した分だけ使うようにする。
2. 人間関係について－誤解を招く言葉がないか、一度考えてから送信するようにする。
3. 危険について－寝る前の使用を避けることで、視力の悪化や朝寝坊を防ぐ。

富田林市立葛城中学校での取り組み内容

今年度

- ・篠原嘉一先生のSNS講演会
NIT情報技術推進
ネットワーク株式会社
- ・タブレット活用ルールの見直し
- ・SNSトラブル啓発動画作成
- ・スマホ道德

タブレット活用ルールの見直し!!!

タブレット活用ルール

① 持ち物・持ち方・持ち方について

② 持ち物・持ち方・持ち方について

③ 持ち物・持ち方・持ち方について

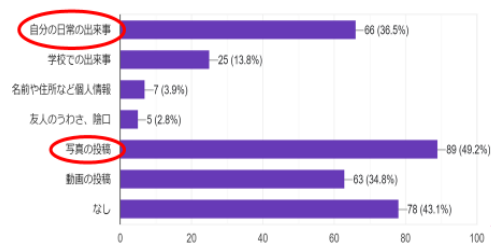
④ 持ち物・持ち方・持ち方について

⑤ 持ち物・持ち方・持ち方について

スマホ道德の内容

- ① スマホアンケートを全校生徒に取り、学校の現状を知る
- ② 事例について考える
事例1: Aさんは休み時間や授業で撮った写真をSNSに投稿してしまった。
事例2: 体育の授業の活動動画を撮影し提出していますが、Bさんは勝手に授業以外で保存・使用しSNSに投稿してしまった。
- ③ スマホやタブレットを使う上でトラブルを未然に防ぐために気をつけたいこと
- ④ 生徒会からの思い
- ⑤ まとめ

2. インターネット上下記書き込みをしたことがありますか。(複数回答可)
181件の回答



<活動の成果>

啓発動画やスマホ道德などの取り組みを経て、SNSの使用の仕方や、学校でのタブレット使用方法など大半の生徒は情報モラルを理解し、正しく使用できている。

<今後の課題>

未然防止のため定期的に取り組んできていき、生徒たち自身で考えて全員が安心・安全にタブレット教育活動が送れるようにする。



 大切にしていること 01 やってみよう精神 わからないことでも とりあえず触ってみる 02 ホウレンソウ 大切なことは必ず 一人以上の教員と 共有する 03 プライバシー アンケートなどで 得られた情報を安易に 共有しない 04 誹謗中傷 チャットなどを使う時は 言葉遣いに気をつける	<大切にしていること> (左記スライドの内容) ①やってみよう精神—どんなことでもとりあえずやってみる。 ②ホウレンソウ—大切なことは必ず一人以上の教員と共有する。 ③プライバシー—アンケートなどで得られた情報を安易に公表しない。 ④誹謗中傷—チャットなどを使うときは言葉遣いに気を付ける。
 学校内で行われているICT活用法 - Adobeを利用した学校内で使えるアプリを作成 - Google Formsを活用した調査による卒業論文の作成 - Ipad等を用いた授業動画を自ら作成 - Googleスライドを用いたプレゼン	<学校内で行われている IC 活用法> (左記スライドの内容) ・ Google スライドを用いたプレゼン ・ i Pad 等を用いた授業動画を自ら作成 ・ Google Forms を活用した調査による卒業論文の作成 ・ Adobe を利用した学校内で使えるアプリを作成
 課外活動 ICT Conference 「実践者として業績を上げたい」という思いを強くもち、 活動すること。授業やより深いインターネット利 用環境の構築を考えた。 IT Passport 「国家資格である 情報処理技術者試験」 に合格 BYOD 高校生活は自分のパソコンを 必須で持参する制度 AI Program 関西学院大学と連携した授業 Society 5.0を学ぶための の、AIに関する知識を習得している	<課外活動> (左記スライドの内容) ・ BYOD—Bring Your Own Device ・ ICT Conference への参加 ・ AI Program—関西学院大学との連携授業 ・ IT Passport—国家資格の取得

<結論>

中学生のころからステップを踏み、IT スキル、IT リテラシーに深い理解を得ることができた。ICT を活用した学習方式のおかげで、いかなる事態においても学びを止めることなく、学習継続可能であった。この学びをいかし、社会にアプローチをし続けたい。

大阪府ネット利用をみんなで考えるプロジェクト アンケートのまとめ

・第1回青少年・保護者合同ワークショップ アンケート

Q. ワークショップを通して一番印象的だったことを教えてください。	
参加生徒	・すごく楽しかったです。ポスターを作ったりしてネットの怖さを改めて知ることができました。 ・他校の方の意見を聞くことで参考になった。 ・男女・年齢が違うだけで差があることが再認識できた。 ・警察官の人の動画の内容が印象的だった。相談とか信頼していた人が実は怖い人だったり…というのが実際の話で怖かった。 ・小学生のネット使用率を見てみると、自分の想像よりも圧倒的に多かったため、印象に残った。 ・他校と自分の学校のインターネット使用環境の差をよく知れた。 ・各班で発表し合い評価し合えたこと。 ・スマホアンケートの結果で、ネットを使っている人が想像以上に多くで驚きました。 ・それぞれでポスターを作って発表したこと。
保護者	・子どもたちの自立・自律しようとする姿。 ・生徒たちがイキイキと交流・発表する姿に感銘を受けた。

・第2回青少年・保護者合同ワークショップ アンケート

Q. ワークショップを通して一番印象的だったことを教えてください。	
参加生徒	・制限についてもう一度考え直してみたいと思った。 ・各学校の取組みについて⇒自分たちで授業をされていてすごいと思った。 ・いろんな学校の考えが知れたこと。 ・今回は、前回と違うメンバーと話したので、前回聞いた意見を引用して発表できた。 ・大人と実際に話すことができたので、とても貴重な体験ができた。 ・どの学校も「フィルタリング」が強いと答えていたので、大人は子どもたちを信用して徐々にフィルタリングを外していくことが、これから必要になるのでは、と考えることができた。 ・データを示して、前と後のデータ比較をしたことが印象的だった。 ・スマートフォンの制限をよいと思っていて、活用している、と聞いて意外に感じた。 ・一人ひとり考える時間があったこと。 ・自分で説明したこと。
保護者	・子どもたちの変容に驚いた。 ・子どもたち自身が、ネットの使い方に危機感を感じていることに驚いた。 ・一人ひとりが考える時間をとっているところが印象的だった。

Q. 今後、学校やPTAで取組みたいことを教えてください。	
参加生徒	・スマホについて考え直す機会を設けたい。 ・スマホについて、みんなが理解したうえで、スマホの校則を作りたい。 ・学校やSNSのルールを作りたいと思いました。 ・生徒自身がスマホのルールについて、話し合える環境を作っていこうと思いました。 ・タブレットのルールの見直しが必要。 ・ネットリテラシーについて話し合いたい。
保護者	・更なる自律・自立をはぐくむための研修会の開催を行う。 ・ICT教育のさらなる加速を求める。 ・ネット利用のルール作り、話し合いを行う。